乳幼児の救急

●資料提供　帯広消防署救急課　☎0155-26-9132　帯広市西６条南６丁目3-1

ひきつけ

判断

- 高熱時（熱性けいれん）、激しく泣いている最中（憤怒けいれん）に発作
- テレビなどの視覚刺激（光感受性発作）も原因に
- 全身を突っぱらせ、顔面や手足のふるえ、意識消失、よだれを垂らすなどの症状も

応急手当

❶ 衣服のボタンなどを外し、呼吸が楽にできるように。

❷ 周囲にあるぶつかると危険なものを遠ざけ、体の周りに柔らかいタオルやクッションを。近くにストーブがあるときは接触によるやけどにも注意を。

❸ 高熱時は冷たいタオルなどを頭部に。

❹ 発作はたいてい数分。治まったら回復 体位にしてしばらく安静に。

注意

※あわてて体を押さえつけたり、激しく揺するのは禁物。ひきつけで舌をかむ心配はまずないので、口にタオルなどの詰めものは不要です。

※高熱時にたびたび発作をおこすようなら、かかりつけ医に相談して解熱剤（坐薬）を常備し、熱の上がり具合をみて早めに使用を。ひきつけが頻繁におこる場合、脳炎や髄膜炎などの重い病気も考えられます。

1歳以上～成人の回復体位

ⓐ 体を横向きに
ⓑ 頭をやや後屈させて気道を開放
ⓒ 上側のひざを90度曲げるように

ひきつけが長時間続いたら

すぐに病院へ

早めに小児科などへ。

吐く

判断

- ミルクの飲みすぎや空気を飲み込んだための生理的な逆流現象です（吐乳・溢乳）
  ※授乳後の乳児の背中を軽くたたいてゲップさせると吐乳・溢乳の予防に。

応急手当

寝かせている乳児は、吐いている最中に吐物を喉に詰まらせないように顔を横向けに。

発熱、腹痛、血便を伴う場合

すぐに病院へ

胃腸・腹膜の炎症、腸重積症などの疑い。小児科などへ。

※吐物は病気判定の参考に。
色（黄色・茶褐色など）や状態（泡状など）をよく確認して医師に伝えましょう。

誤飲

判断

- なくなっているもの（硬貨、ボタン、クリップ、タバコなど）を確認

のどが詰まって窒息状態のとき

応急手当

意識があることを確認。乳幼児を片方の腕にうつぶせに乗せ、頭を低くして背中の肩甲骨のあいだを４～５回たたく（背部叩打法）。

メモ

- 異物が取れなくても異物の移動で空気の通りがよくなることが期待できます。
- 反応がなくなった場合は、乳幼児に対する心肺蘇生を開始します。

鋭利なもの、大きな異物を飲み込んだとき　至急119番へ　救急車到着までに上記の応急手当を

毒性のあるものを飲んだとき

中毒110番

吐かせない！

（財）日本中毒情報センターでは化学物質（家庭用品、医薬品、農薬などを含む）および動植物の毒によって起こる急性の中毒について、応急処置などの緊急情報の提供があります。

- 大阪中毒110番　電話：072-727-2499（無料）　365日　24時間対応
- つくば中毒110番　電話：029-852-9999（無料）　365日　9時～21時対応
- 財団ホームページ　http://www.j-poison-ic.or.jp

毒性のあるものを飲んだとき　至急119番へ

発疹（ほっしん）

判断

- 平熱・微熱、軽い痛みやかゆみ → 医師にかかるのは様子をみてからでも大丈夫
- 高熱、泣きやまない痛いかゆみ → 小児科などへ

応急手当

❶ 熱が出ていたら、安静に寝かせて十分な水分補給を。

❷ 暑さやかゆみを訴えたら、室温、肌着や布団の量の加減を。

❸ ひっかきによる発疹の化膿などを防ぐため爪は短く切る。

発疹で考えられる病気

発熱	熱と発疹の出方	発疹の状態	考えられる病気
あり	熱が先に出る	赤　い	麻疹（読み：ましん＝はしか） 突発性発疹など
あり	熱が先に出る （熱が出ないことも）	水疱あり	手足口病など
あり	同時に出る	赤　い	風疹（読み：ふうしん＝三日ばしか）など
あり	同時に出る	水疱あり	水痘（水ぼうそう）など
なし		赤　い	アトピー性皮膚炎、脂漏性（読み：しろうせい）皮膚炎、あせも、じんましんなど
なし		水疱あり	伝染性膿痂疹 （読み：のうかしん＝とびひ）など